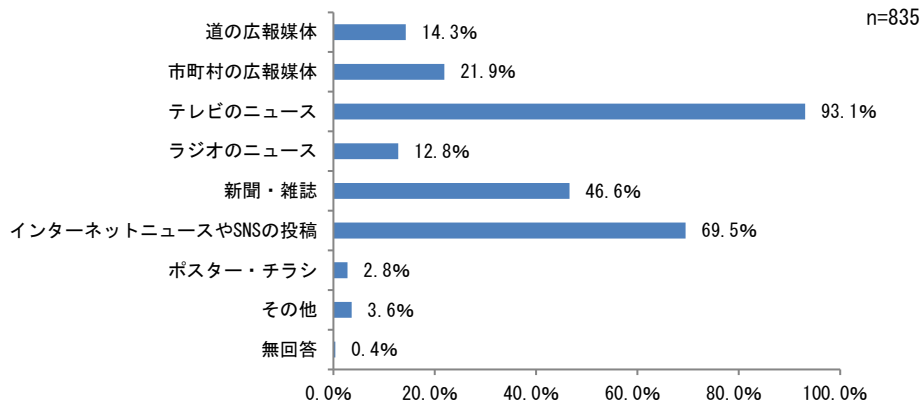


新型コロナウイルス感染症について

問1 新型コロナウイルス感染症に関して、どのような方法で情報を収集していますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「テレビのニュース」(93.1%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「インターネットニュースやSNSの投稿」(69.5%)、「新聞・雑誌」(46.6%)の順となっている。

【圏域別】

「テレビのニュース」については、道北連携地域(94.9%)が最も割合が高く、次いで道南連携地域(94.4%)となっている。「インターネットニュースやSNSの投稿」については、オホーツク連携地域(72.5%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(72.4%)となっている。

【人口規模別】

「テレビのニュース」については、人口10万人未満の市(96.3%)が最も割合が高く、次いで町村部(95.4%)となっている。「インターネットニュースやSNSの投稿」については、札幌市(74.5%)が最も割合が高く、次いで町村部(70.9%)となっている。

【性別】

「テレビのニュース」については、男性90.8%、女性95.1%となっており、「インターネットニュースやSNSの投稿」については、男性70.4%、女性68.8%となっている。

【年代別】

「テレビのニュース」については、70歳以上(98.3%)が最も割合が高く、次いで18~29歳(96.7%)となっている。「インターネットニュースやSNSの投稿」については、40~49歳(83.6%)が最も割合が高く、次いで18~29歳(83.3%)となっている。

【職種別】

「テレビのニュース」については、無職(97.8%)が最も割合が高く、次いで事務職系(94.2%)となっている。「インターネットニュースやSNSの投稿」については、自由業(83.0%)が最も割合が高く、次いで事務職系(82.5%)となっている。

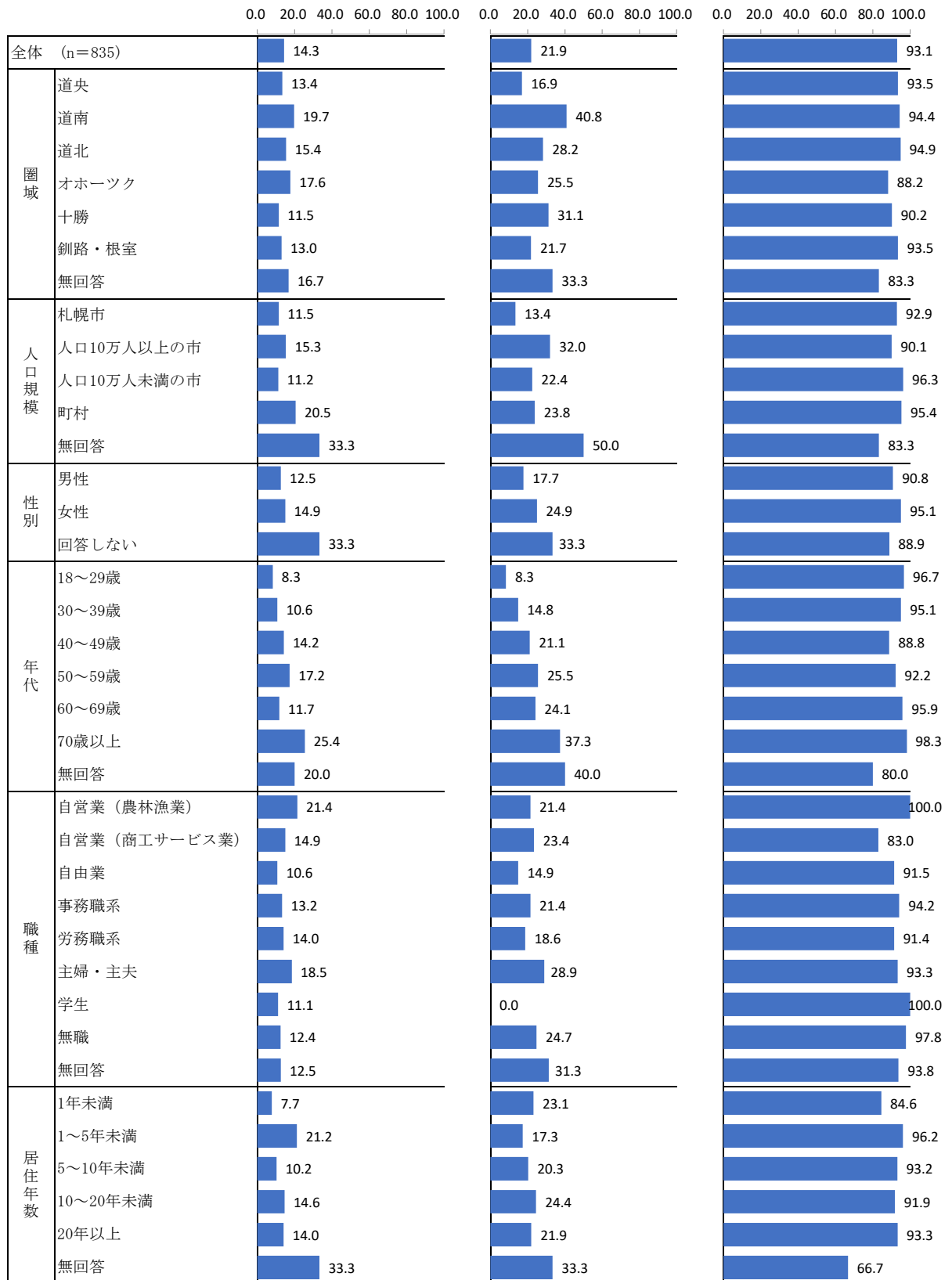
【居住年数別】

「テレビのニュース」については、1~5年未満(96.2%)が最も割合が高く、次いで20年以上(93.3%)となっている。「インターネットニュースやSNSの投稿」については、5~10年未満(88.1%)が最も割合が高く、次いで1~5年未満(86.5%)となっている。

道の広報媒体

市町村の広報媒体

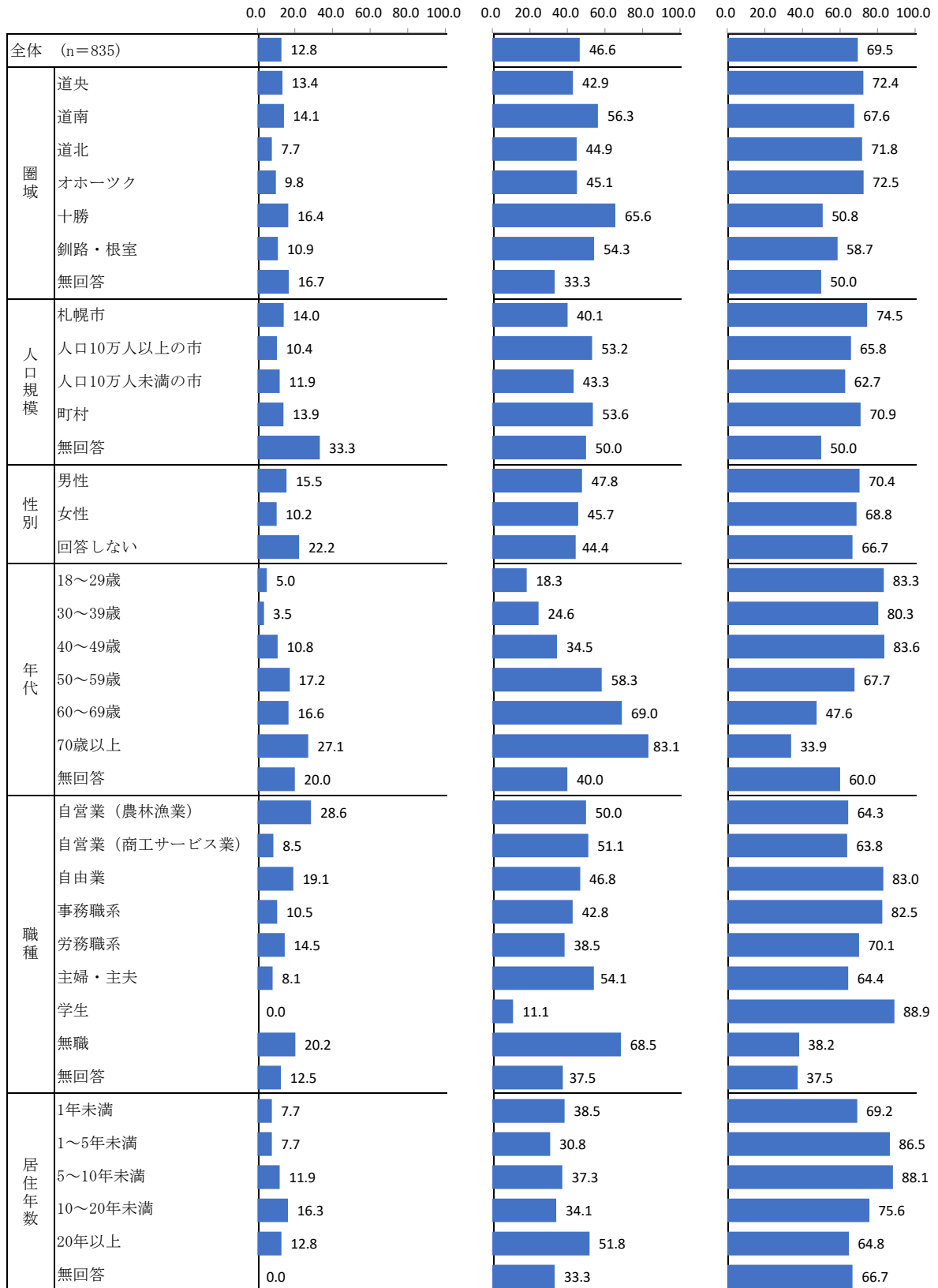
テレビのニュース



ラジオのニュース

新聞・雑誌

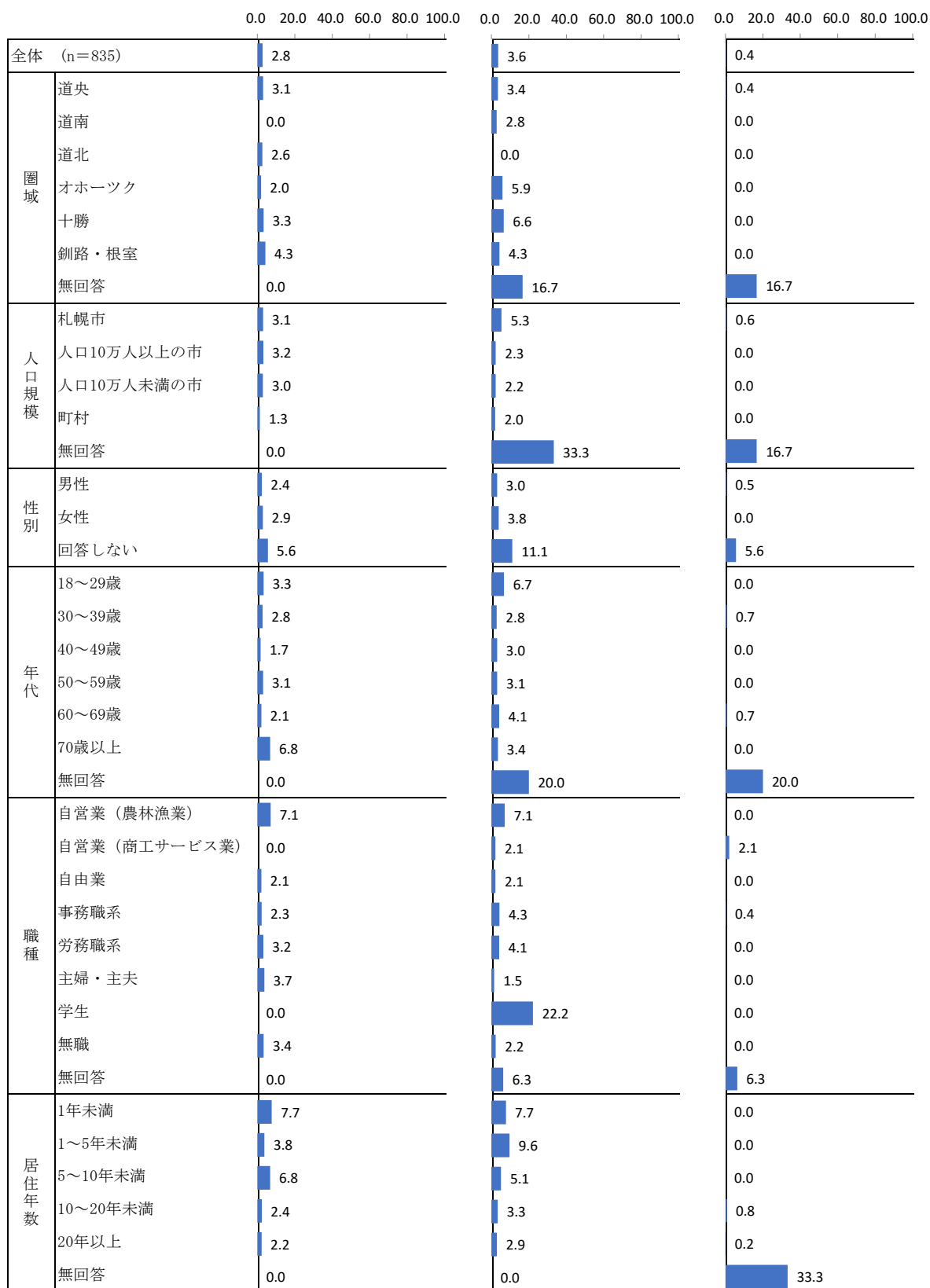
インターネットニュースや
SNSの投稿



ポスター・チラシ

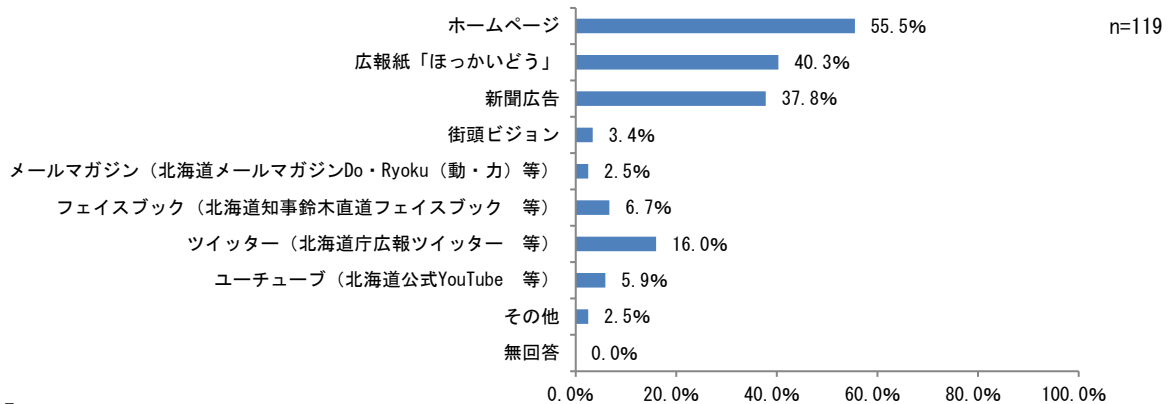
その他

無回答



問2 ※問1で選択肢「1 道の広報媒体」を選んだ方のみお答えください。

道が発信する広報からの情報収集は、どのような媒体を通じて行っていますか。
次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「ホームページ」(55.5%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「広報紙「ほっかいどう」」(40.3%)、「新聞広告」(37.8%)の順となっている。

【圏域別】

「ホームページ」については、オホーツク連携地域(77.8%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(66.7%)となっている。「広報紙「ほっかいどう」」については、十勝連携地域(85.7%)が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域(50.0%)となっている。

【人口規模別】

「ホームページ」については、人口10万人未満の市(66.7%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(58.8%)となっている。「広報紙「ほっかいどう」」については、町村部(45.2%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(40.0%)となっている。

【性別】

「ホームページ」については、男性65.2%、女性47.8%となっており、「広報紙「ほっかいどう」」については、男性32.6%、女性44.8%となっている。

【年代別】

「ホームページ」については、40～49歳(87.9%)が最も割合が高く、次いで50～59歳(57.6%)となっている。「広報紙「ほっかいどう」」については、70歳以上(80.0%)が最も割合が高く、次いで60～69歳(76.5%)となっている。

【職種別】

「ホームページ」については、事務職系(79.4%)が最も割合が高く、次いで自由業(60.0%)となっている。「広報紙「ほっかいどう」」については、無職(63.6%)が最も割合が高く、次いで主婦・主夫(60.0%)となっている。

【居住年数別】

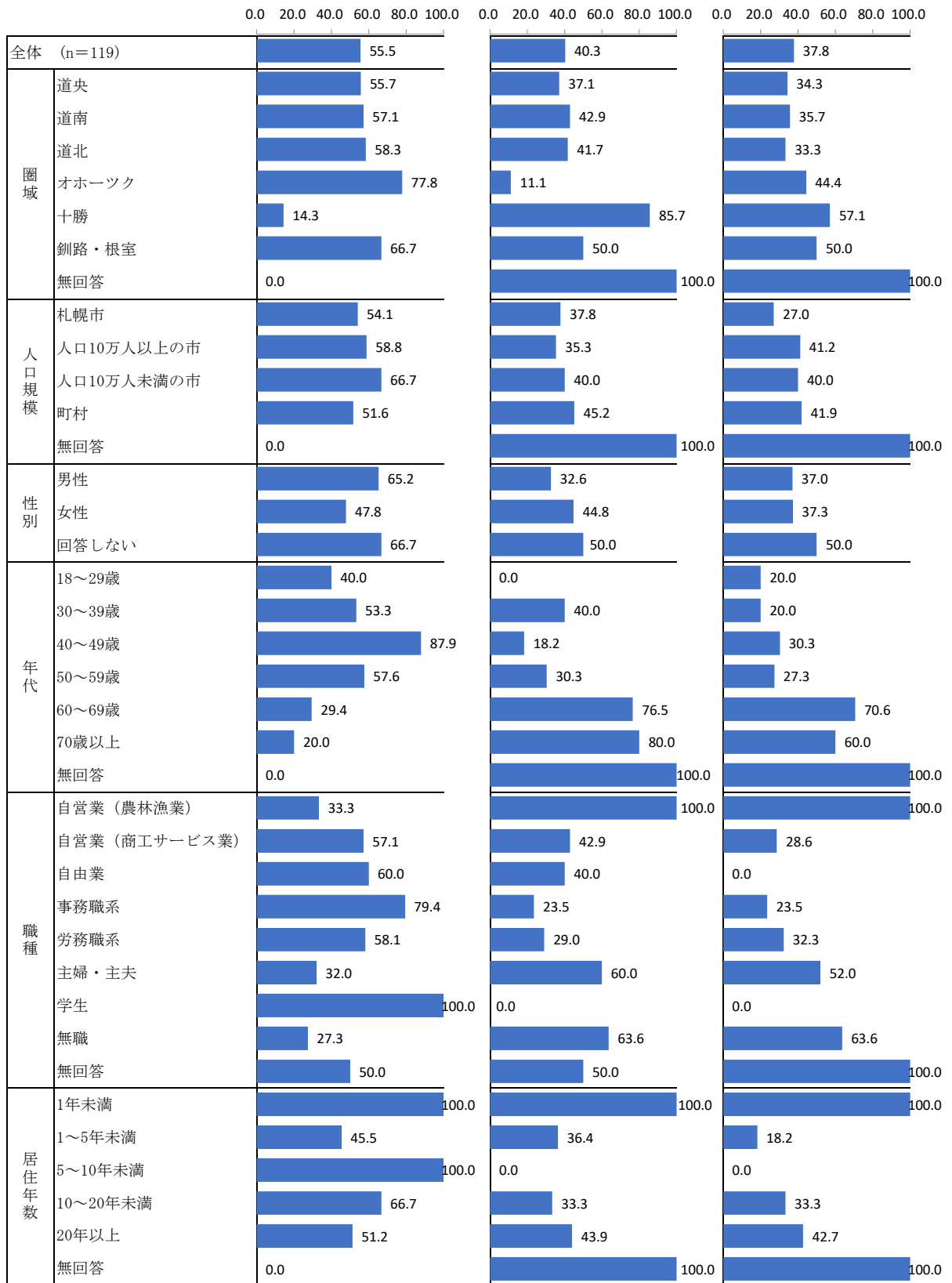
「ホームページ」については、5～10年未満(100.0%)が最も割合が高く、次いで10～20年未満(66.7%)となっている。「広報紙「ほっかいどう」」については、20年以上(43.9%)が最も割合が高く、次いで1～5年未満(36.4%)となっている。

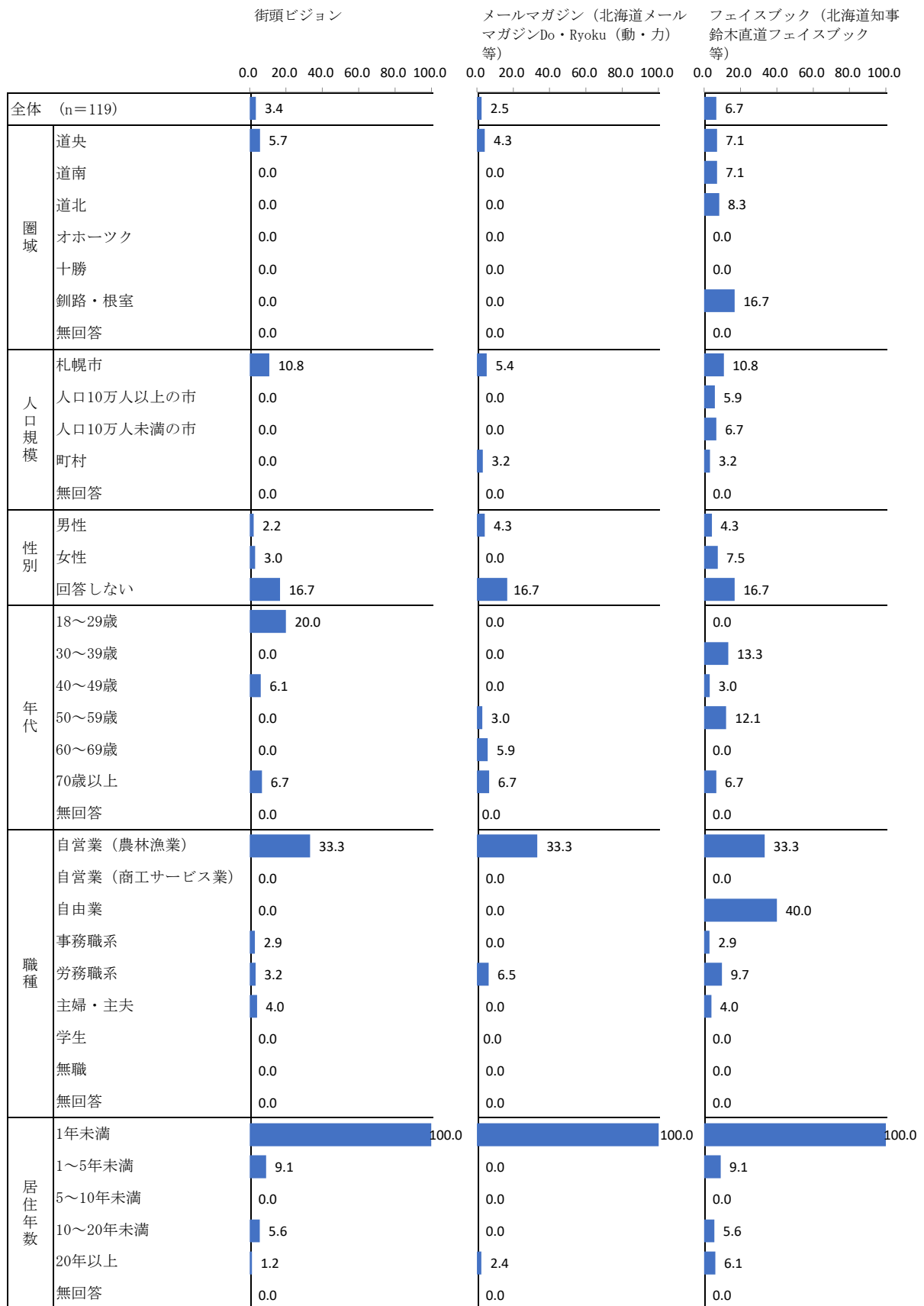
※【居住年数別】の種別による状況において、「1年未満」の回答者数が少なく標本誤差が大きいことから、「1年未満」を除外した記述とした。

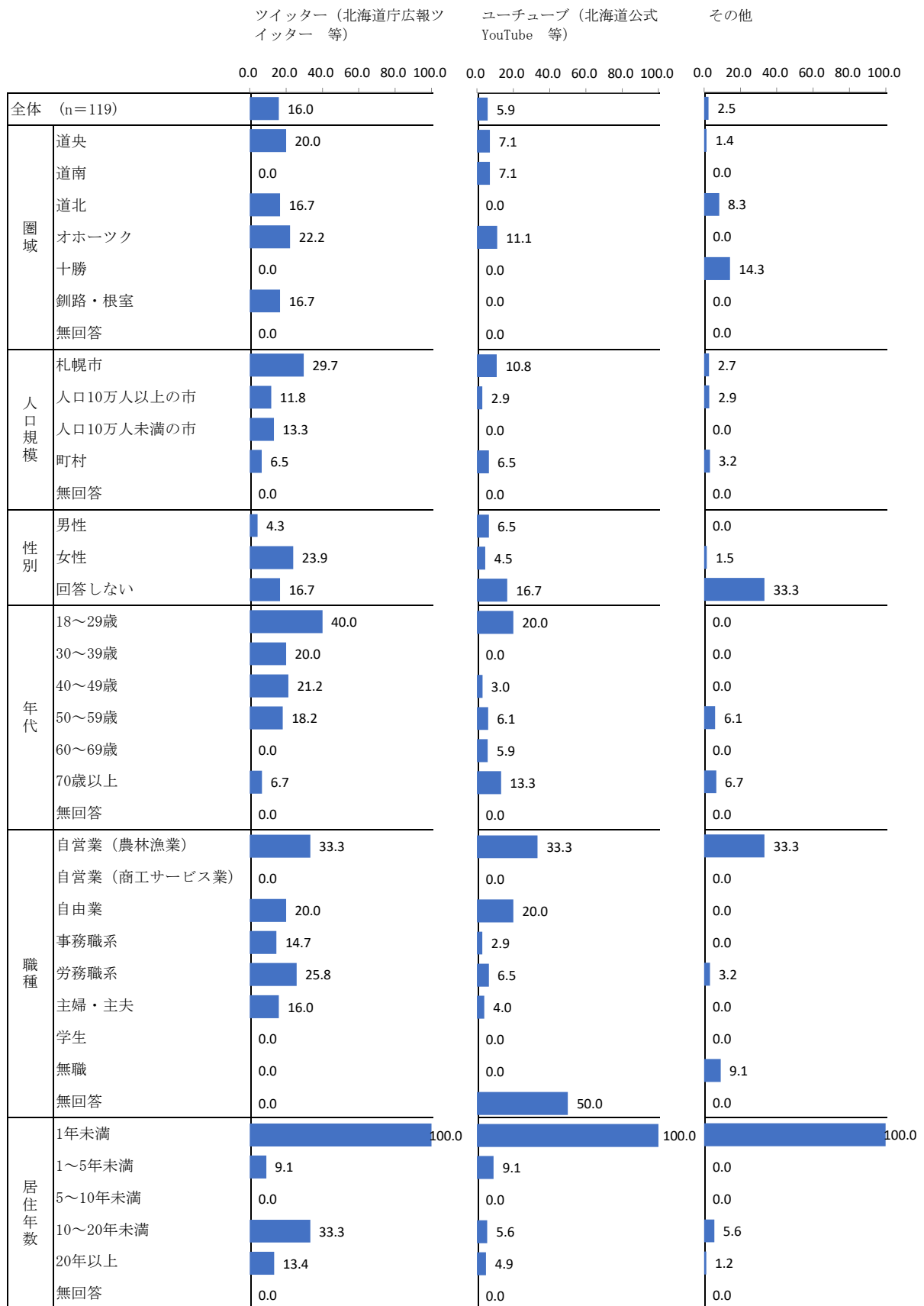
ホームページ

広報紙「ほっかいどう」

新聞広告







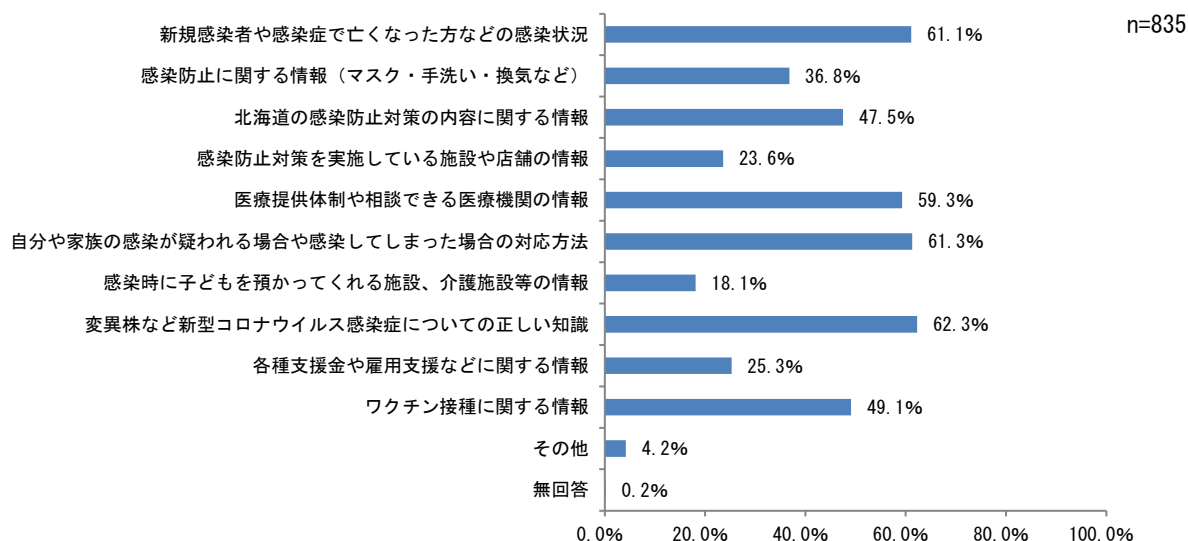
無回答

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

全体	(n=119)	0.0
圏域	道央	
	道南	
	道北	
	オホーツク	
	十勝	
	釧路・根室	
	無回答	
	札幌市	
人口規模	人口10万人以上の市	
	人口10万人未満の市	
	町村	
	無回答	
性別	男性	
	女性	
	回答しない	
年代	18～29歳	
	30～39歳	
	40～49歳	
	50～59歳	
	60～69歳	
	70歳以上	
	無回答	
職種	自営業（農林漁業）	
	自営業（商工サービス業）	
	自由業	
	事務職系	
	労務職系	
	主婦・主夫	
	学生	
	無職	
	無回答	
居住年数	1年未満	
	1～5年未満	
	5～10年未満	
	10～20年未満	
	20年以上	
	無回答	

問3 新型コロナウイルス感染症に関して、どのような情報を必要としていますか。

次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「変異株など新型コロナウイルス感染症についての正しい知識」（62.3%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「自分や家族の感染が疑われる場合や感染してしまった場合の対応方法」（61.3%）、「新規感染者や感染症で亡くなった方などの感染状況」（61.1%）の順となっている。

【圏域別】

「変異株など新型コロナウイルス感染症についての正しい知識」については、道央広域連携地域（66.1%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域（60.9%）となっている。「自分や家族の感染が疑われる場合や感染してしまった場合の対応方法」については、オホーツク連携地域（64.7%）が最も割合が高く、次いで釧路・根室連携地域（63.0%）となっている。

【人口規模別】

「変異株など新型コロナウイルス感染症についての正しい知識」については、札幌市（68.0%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市（61.2%）となっている。「自分や家族の感染が疑われる場合や感染してしまった場合の対応方法」については、人口10万人以上の市（64.9%）が最も割合が高く、次いで札幌市（63.7%）となっている。

【性別】

「変異株など新型コロナウイルス感染症についての正しい知識」については、男性61.4%、女性62.6%となっており、「自分や家族の感染が疑われる場合や感染してしまった場合の対応方法」については、男性55.7%、女性65.5%となっている。

【年代別】

「変異株など新型コロナウイルス感染症についての正しい知識」については、18～29歳と50～59歳（66.7%）が同率で最も割合が高く、次いで70歳以上（64.4%）となっている。「自分や家族の感染が疑われる場合や感染してしまった場合の対応方法」については、40～49歳（63.4%）が最も割合が高く、次いで18～29歳（63.3%）となっている。

【職種別】

「変異株など新型コロナウイルス感染症についての正しい知識」については、自由業（66.0%）が最も割合が高く、次いで労務職系（65.2%）となっている。「自分や家族の感染が疑われる場合や感染してしまった場合の対応方法」については、労務職系（64.3%）が最も割合が高く、次いで主婦・主夫（63.7%）となっている。

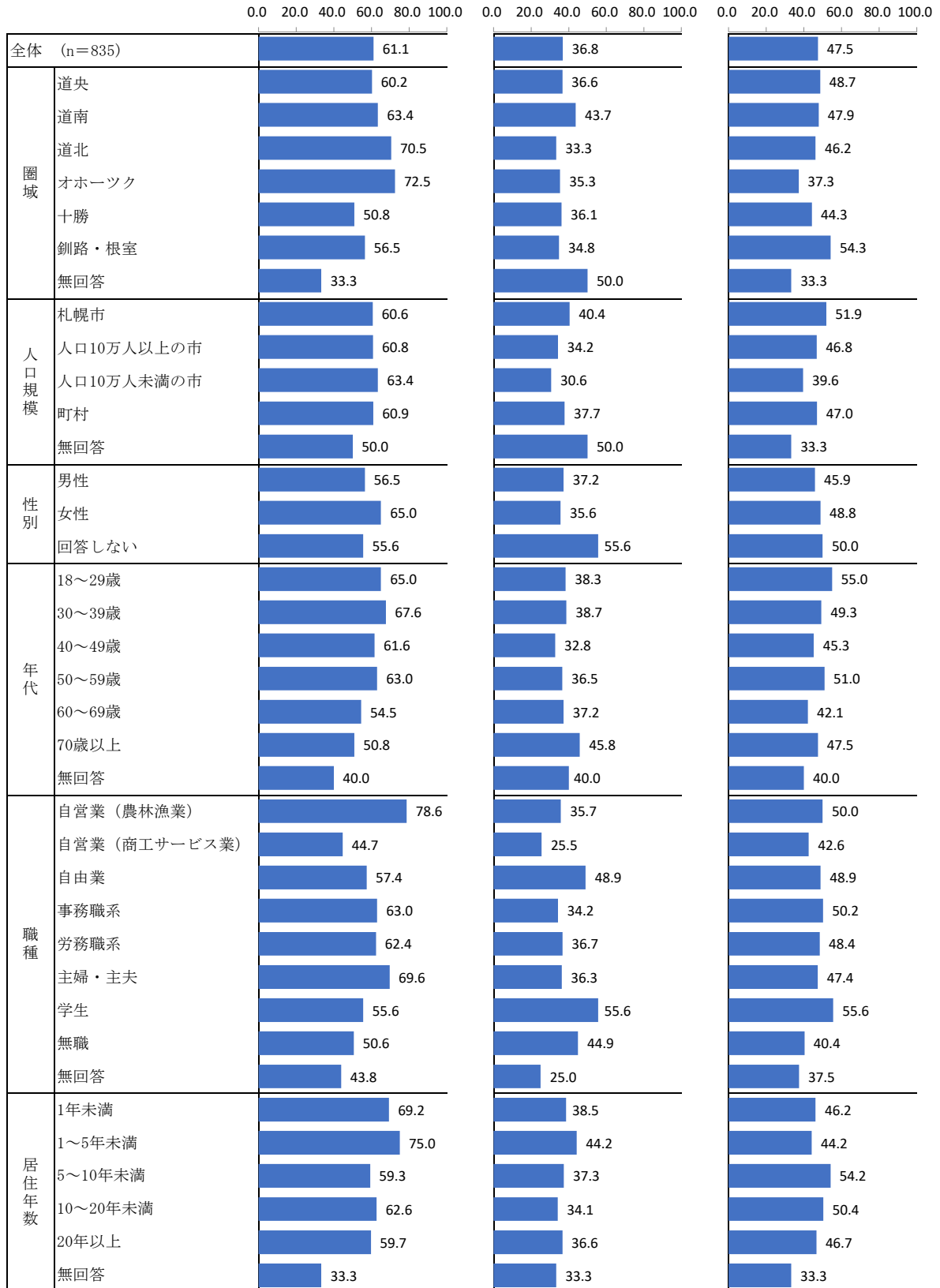
【居住年数別】

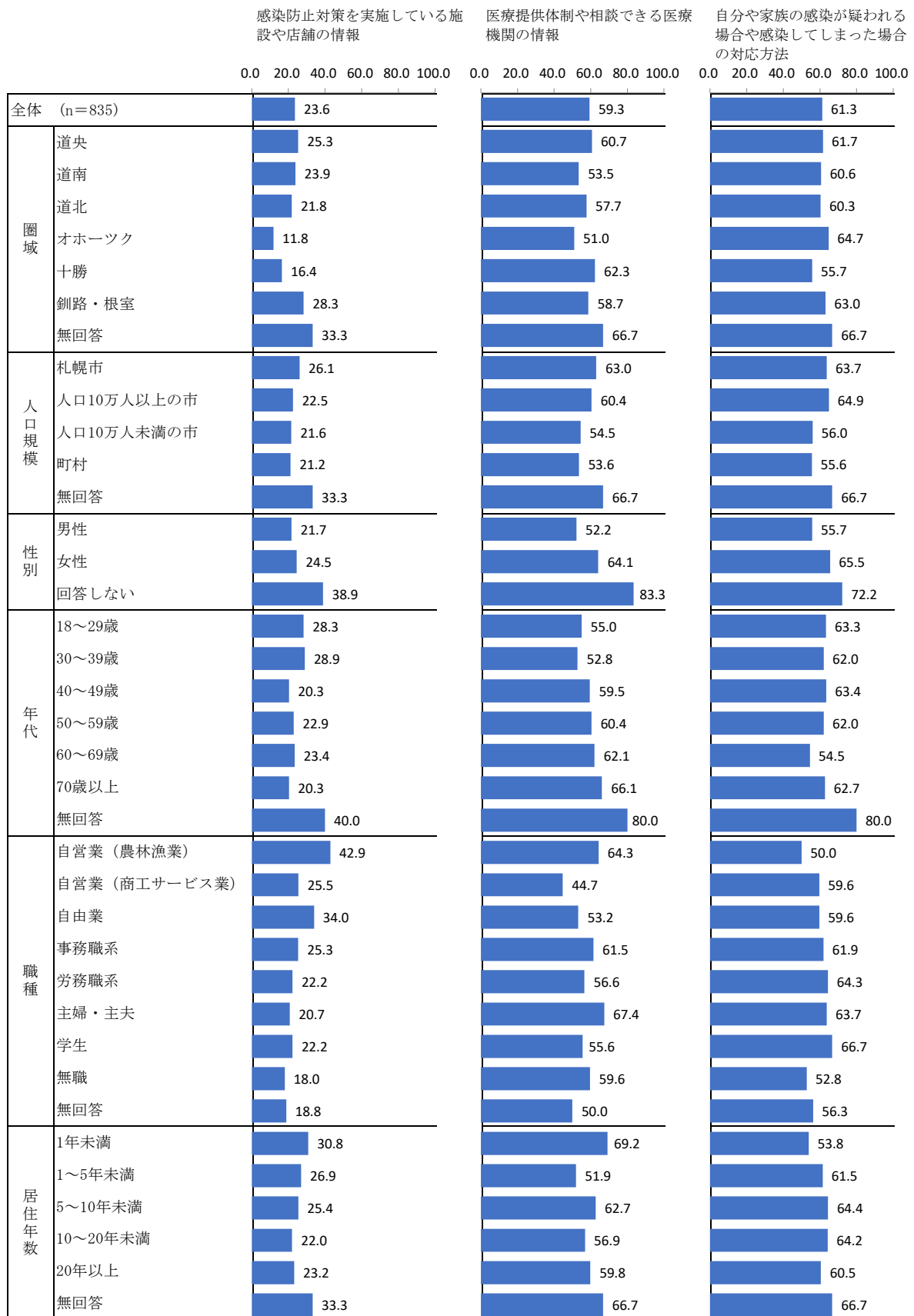
「変異株など新型コロナウイルス感染症についての正しい知識」については、10～20年未満（65.0%）が最も割合が高く、次いで5～10年未満（64.4%）となっている。「自分や家族の感染が疑われる場合や感染してしまった場合の対応方法」については、5～10年未満（64.4%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（64.2%）となっている。

新規感染者や感染症で亡くなった方などの感染状況

感染防止に関する情報（マスク・手洗い・換気など）

北海道の感染防止対策の内容に関する情報

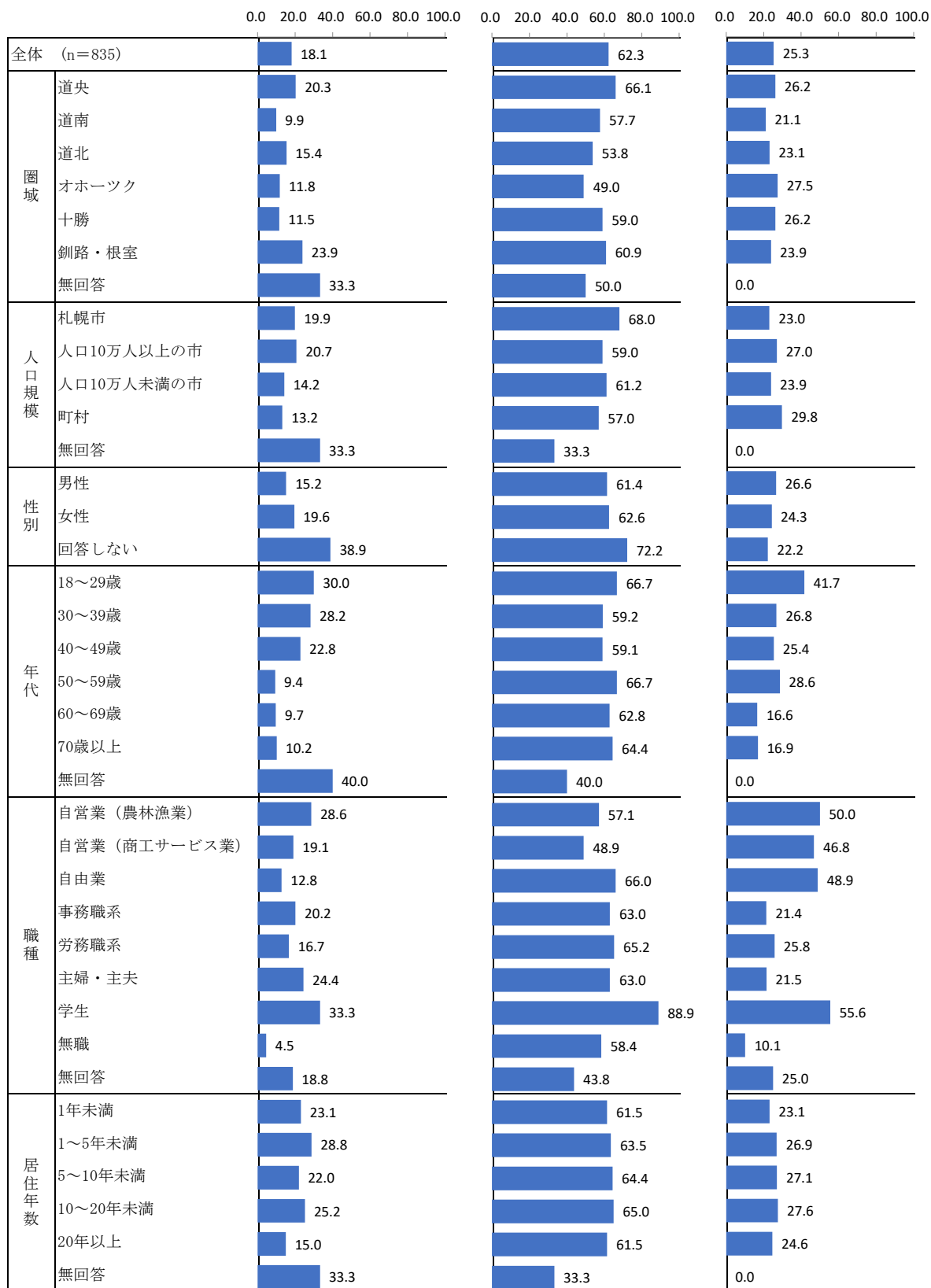




感染時に子どもを預かってくれる施設、介護施設等の情報

変異株など新型コロナウイルス感染症についての正しい知識

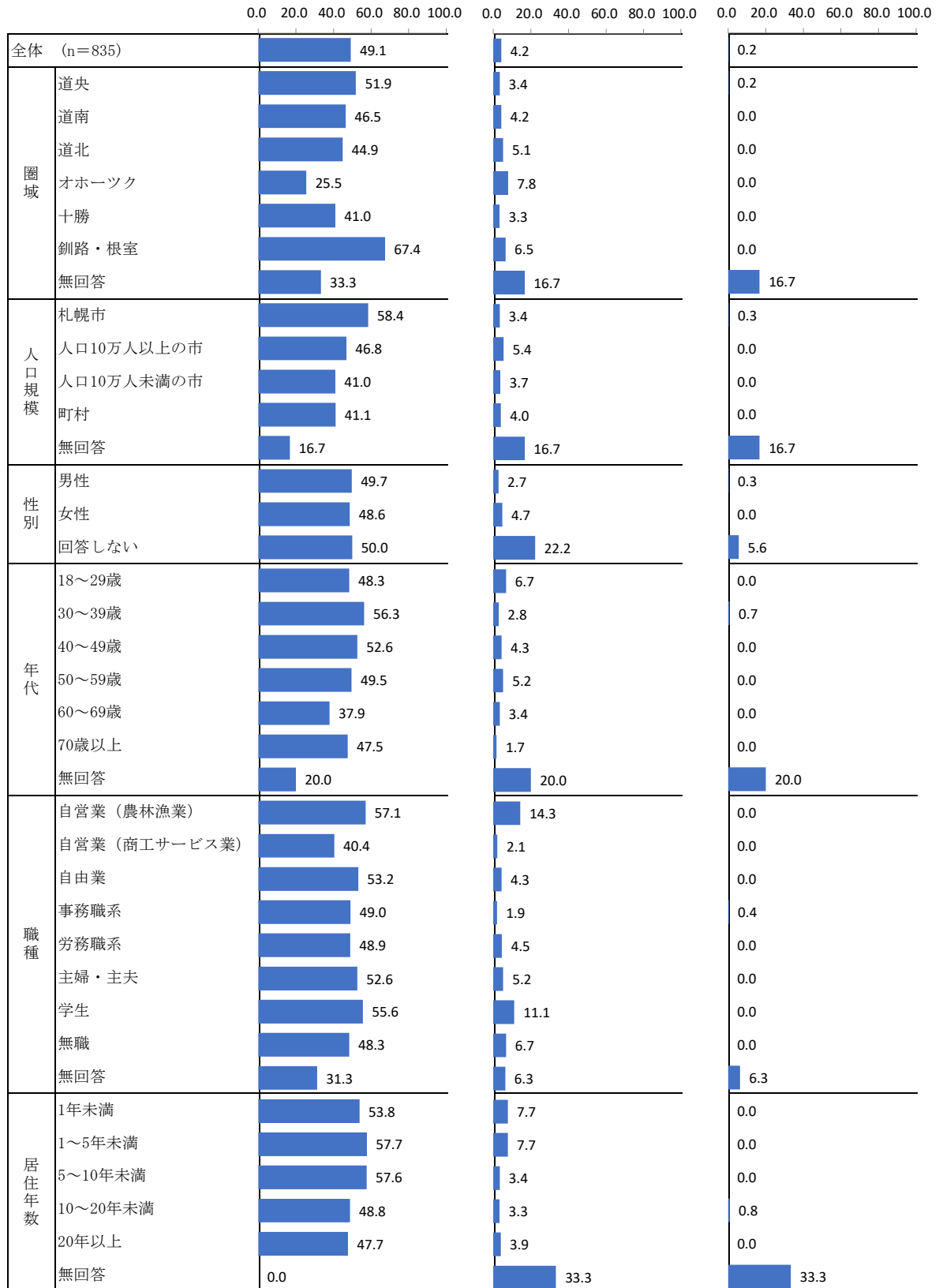
各種支援金や雇用支援などに関する情報



ワクチン接種に関する情報

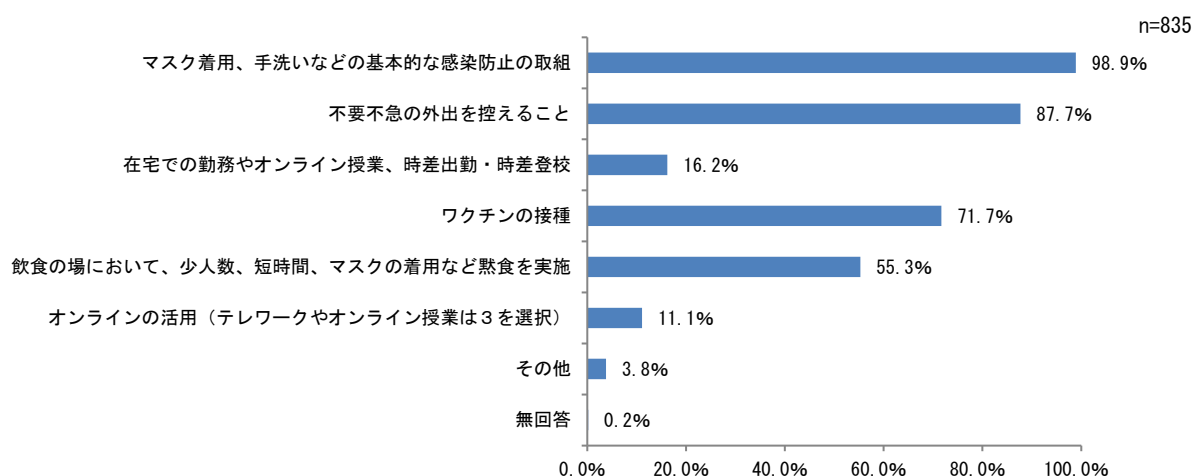
その他

無回答



問4 新型コロナウイルス感染症の対策として、取り組んだものを挙げてください。

次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「マスク着用、手洗いなどの基本的な感染防止の取組」（98.9%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「不要不急の外出を控えること」（87.7%）、「ワクチンの接種」（71.7%）の順となっている。

【圏域別】

「マスク着用、手洗いなどの基本的な感染防止の取組」については、道北連携地域、オホーツク連携地域、十勝連携地域の3地域が同率（100.0%）で最も割合が高く、次いで道央広域連携地域（98.9%）となっている。「不要不急の外出を控えること」については、道北連携地域（93.6%）で最も割合が高く、次いで十勝連携地域（93.4%）となっている。

【人口規模別】

「マスク着用、手洗いなどの基本的な感染防止の取組」については、人口10万人以上の市（99.5%）が最も割合が高く、次いで町村部（99.3%）となっている。「不要不急の外出を控えること」については、町村部（92.1%）が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市（90.1%）となっている。

【性別】

「マスク着用、手洗いなどの基本的な感染防止の取組」については、男性98.4%、女性99.6%となっており、「不要不急の外出を控えること」については、男性82.6%、女性91.8%となっている。

【年代別】

「マスク着用、手洗いなどの基本的な感染防止の取組」については、60～69歳（100.0%）が最も割合が高く、次いで30～39歳（99.3%）となっている。「不要不急の外出を控えること」については、70歳以上（91.5%）が最も割合が高く、次いで50～59歳（90.1%）となっている。

【職種別】

「マスク着用、手洗いなどの基本的な感染防止の取組」については、主婦・主夫（100.0%）が最も割合が高く、次いで事務職系（99.2%）となっている。「不要不急の外出を控えること」については、主婦・主夫（92.6%）で最も割合が高く、次いで無職（88.8%）となっている。

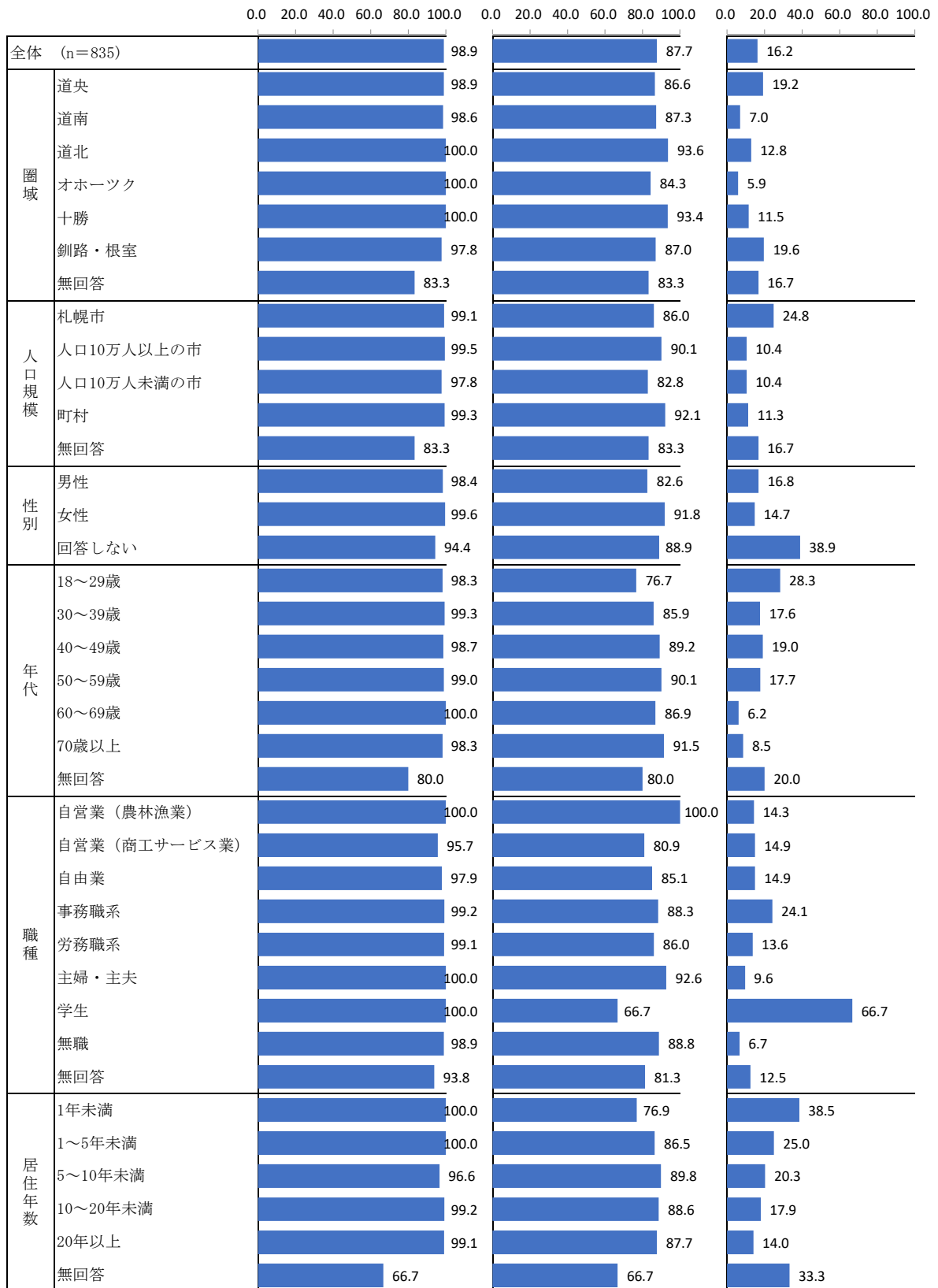
【居住年数別】

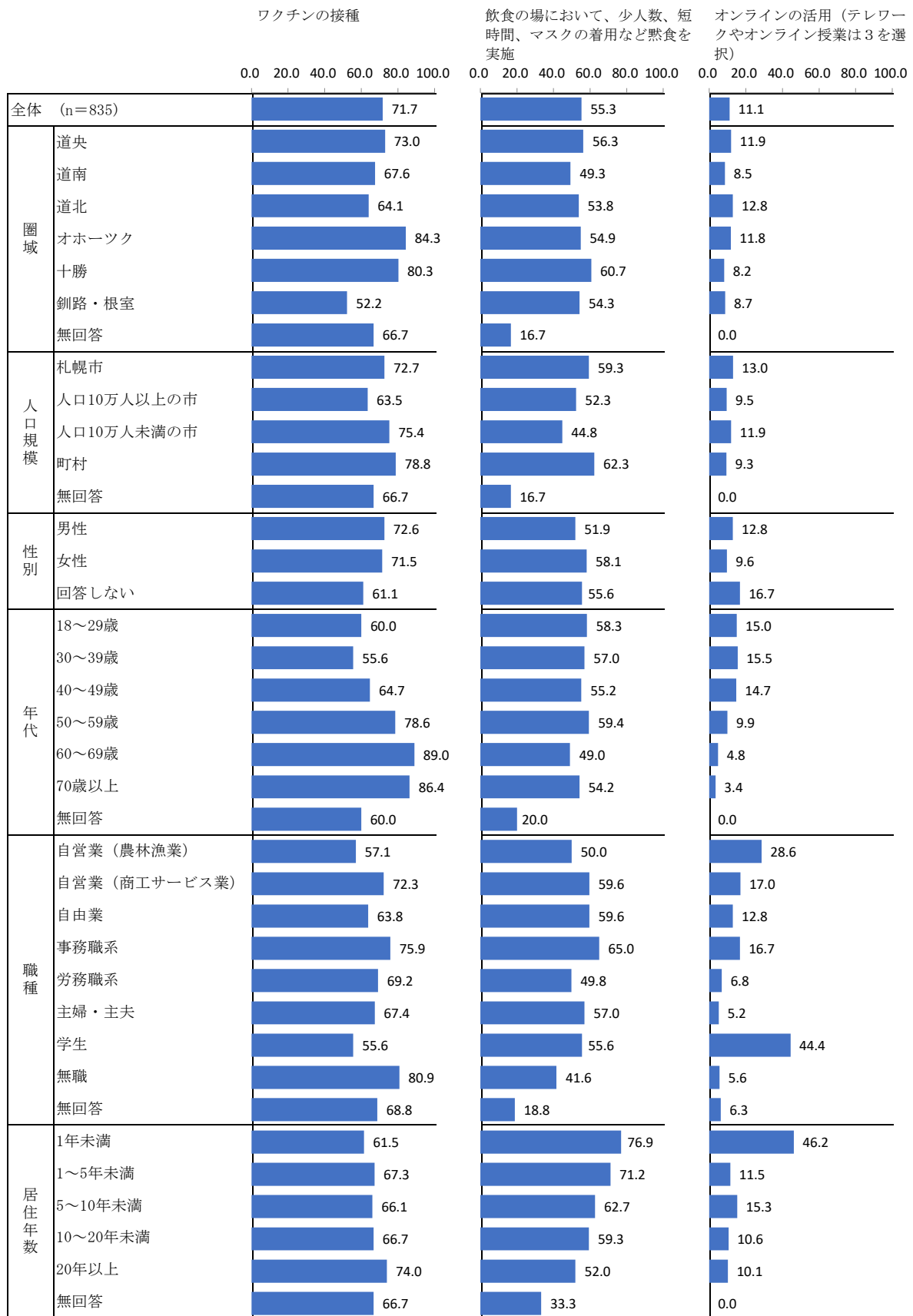
「マスク着用、手洗いなどの基本的な感染防止の取組」については、1年未満と1～5年未満が同率（100.0%）で最も割合が高く、次いで10～20年未満（99.2%）となっている。「不要不急の外出を控えること」については、5～10年未満（89.8%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（88.6%）となっている。

マスク着用、手洗いなどの基本的な感染防止の取組

不要不急の外出を控えること

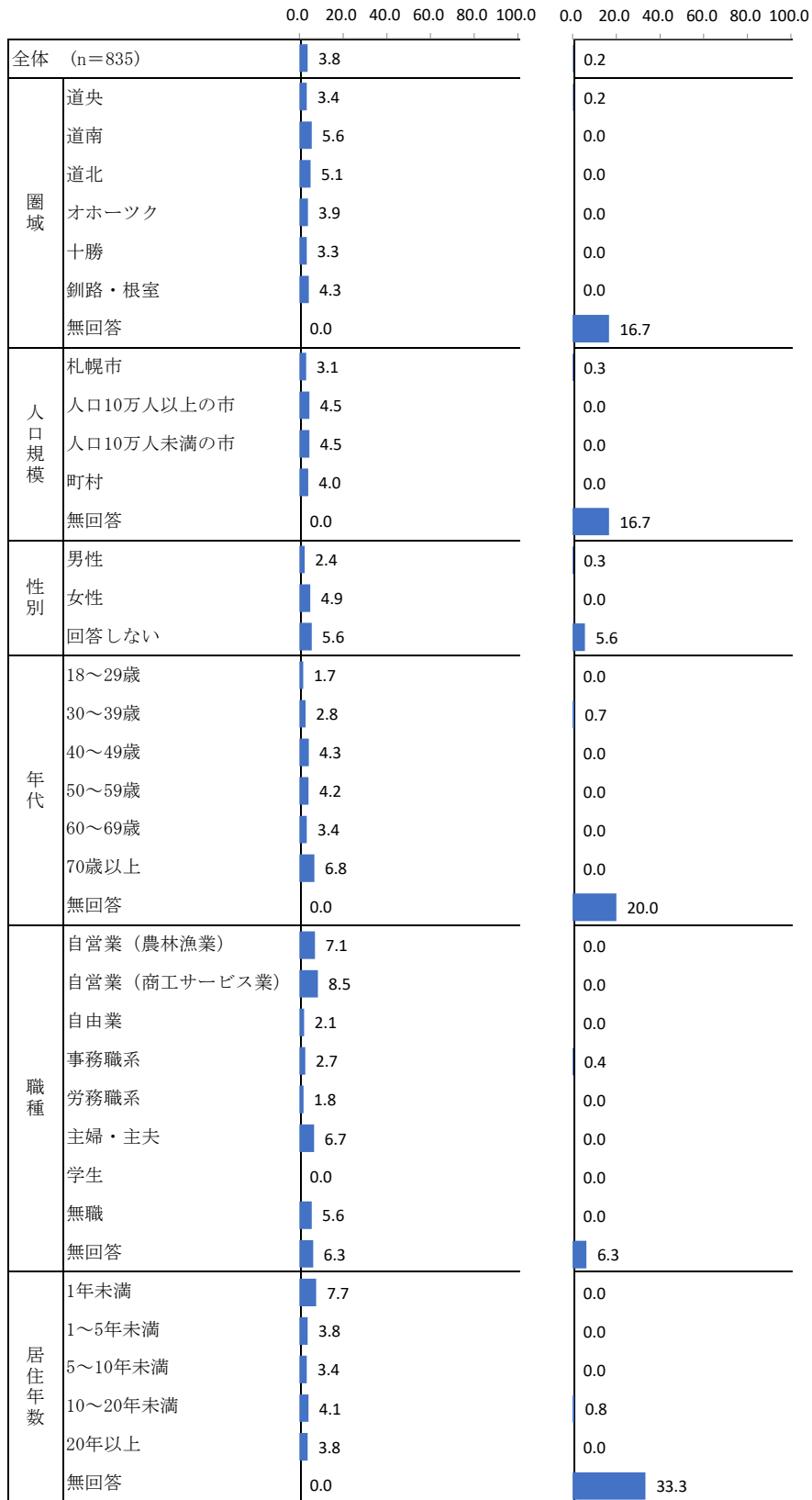
在宅での勤務やオンライン授業、時差出勤・時差登校





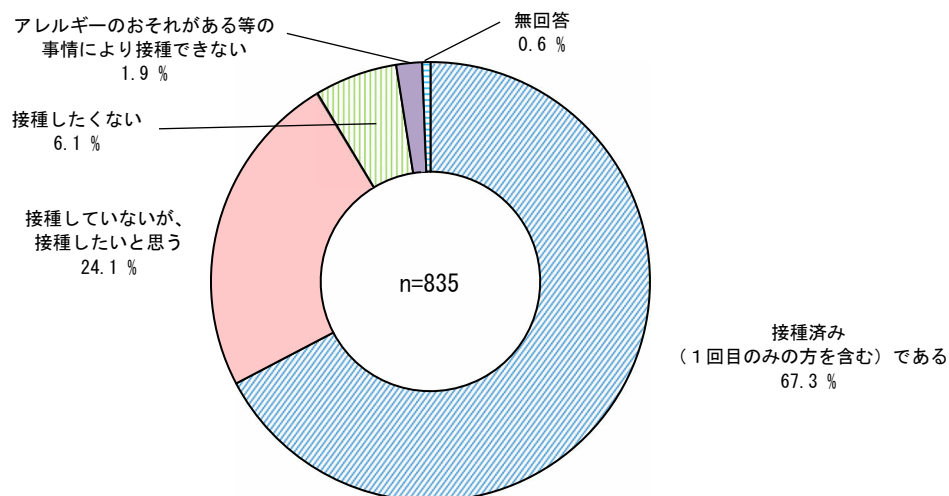
その他

無回答



問5 新型コロナウイルス感染症のワクチン接種について伺います。

次の中から1つだけお選びください。



【全体】

「接種済み（1回目のみの方を含む）である」（67.3%）と答えた方の割合が最も高く、次いで「接種していないが、接種したいと思う」（24.1%）、「接種したくない」（6.1%）の順となっている。

【圏域別】

「接種済み（1回目のみの方を含む）である」については、オホーツク連携地域（80.4%）が最も割合が高く、次いで十勝連携地域（80.3%）となっている。「接種していないが、接種したいと思う」については、釧路・根室連携地域（39.1%）が最も割合が高く、次いで道南連携地域（29.6%）となっている。

【人口規模別】

「接種済み（1回目のみの方を含む）である」については、町村部（76.2%）が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市（67.9%）となっている。「接種していないが、接種したいと思う」については、人口10万人以上の市（28.8%）が最も割合が高く、次いで札幌市（25.5%）となっている。

【性別】

「接種済み（1回目のみの方を含む）である」については、男性69.6%、女性66.6%となっており、「接種していないが、接種したいと思う」については、男性24.2%、女性23.4%となっている。

【年代別】

「接種済み（1回目のみの方を含む）である」については、60～69歳（89.0%）が最も割合が高く、次いで70歳以上（86.4%）となっている。「接種していないが、接種したいと思う」については、30～39歳（37.3%）が最も割合が高く、次いで18～29歳（33.3%）となっている。

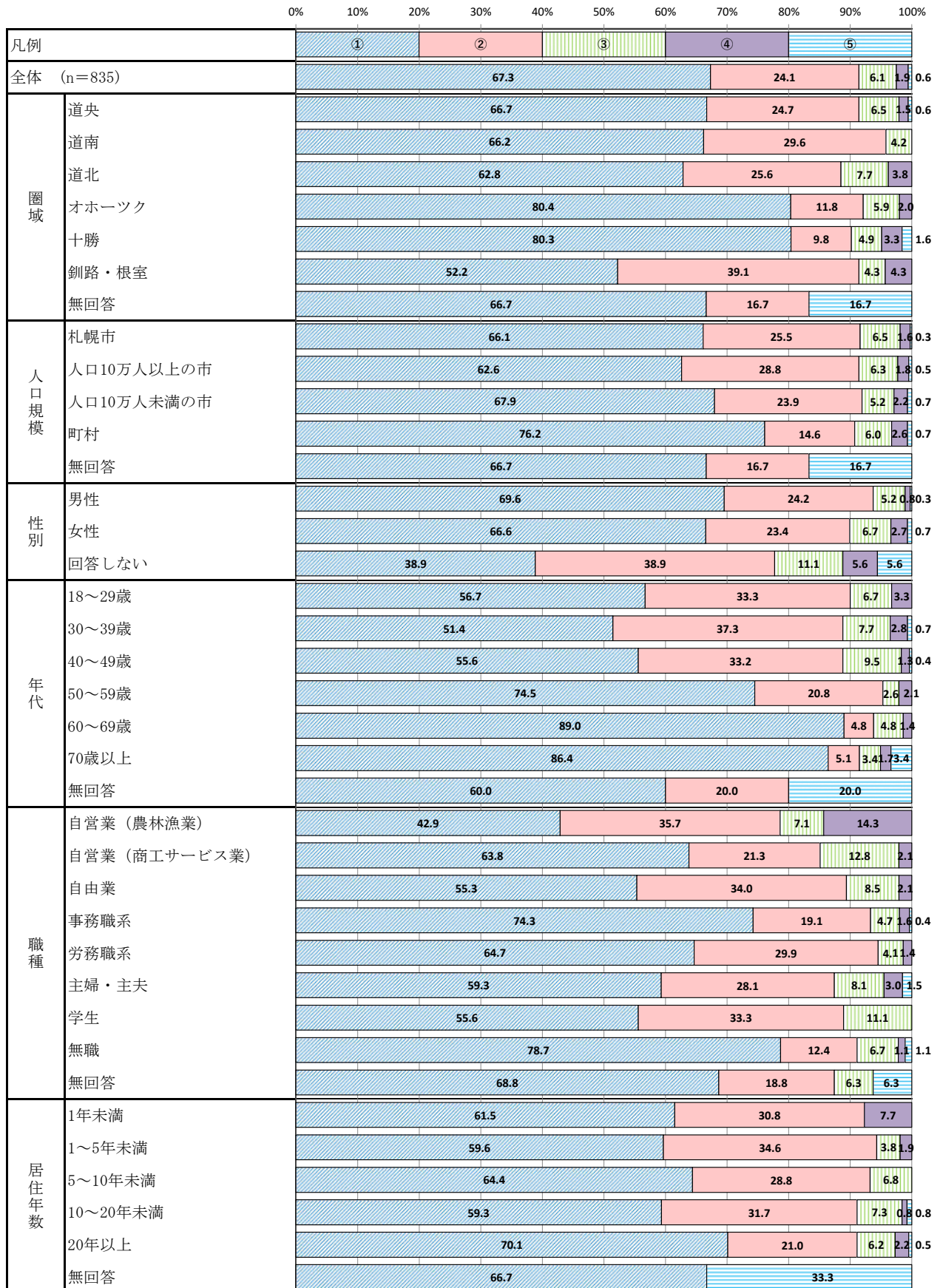
【職種別】

「接種済み（1回目のみの方を含む）である」については、無職（78.7%）が最も割合が高く、次いで事務職系（74.3%）となっている。「接種していないが、接種したいと思う」については、自由業（34.0%）が最も割合が高く、次いで労務職系（29.9%）となっている。

【居住年数別】

「接種済み（1回目のみの方を含む）である」については、20年以上（70.1%）が最も割合が高く、次いで5～10年未満（64.4%）となっている。「接種していないが、接種したいと思う」については、1～5年未満（34.6%）が最も割合が高く、次いで10～20年未満（31.7%）となっている。

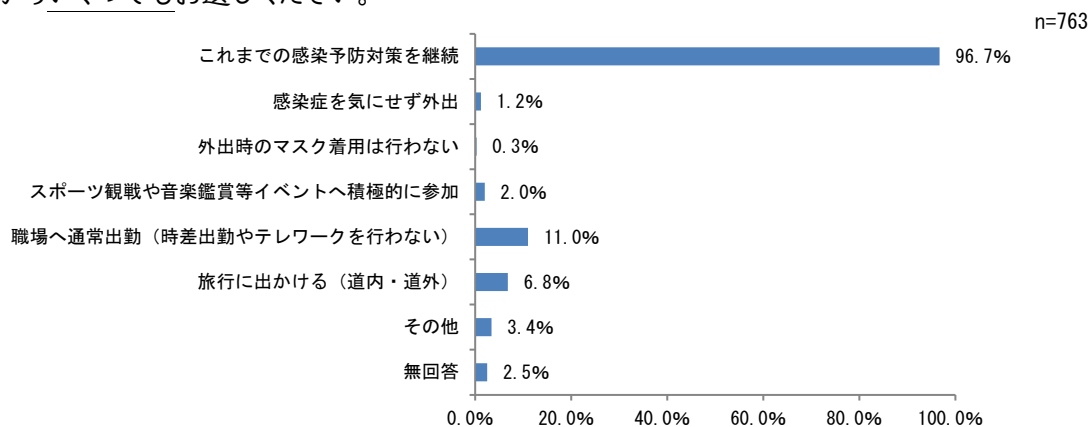
①接種済み（1回目のみの方を含む）である ②接種していないが、接種したいと思う
 ③接種したくない ④アレルギーのおそれがある等の事情により接種できない ⑤無回答



問6 ※問5で選択肢「1 接種済み(1回目のみの方を含む)である」または「2 接種していないが、接種したいと思う」を選んだ方のみお答えください。

新型コロナウイルス感染症に関して、ワクチン接種を受けた方(受ける予定の方)は、ワクチン接種後にどのような行動をとろうと考えていますか。

次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「これまでの感染予防対策を継続」(96.7%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「職場へ通常出勤(時差出勤やテレワークを行わない)」(11.0%)、「旅行に出かける(道内・道外)」(6.8%)の順となっている。

【圏域別】

「これまでの感染予防対策を継続」については、オホーツク連携地域(97.9%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域と道北連携地域(97.1%)が同率となっている。「職場へ通常出勤(時差出勤やテレワークを行わない)」については、オホーツク連携地域(19.1%)が最も割合が高く、次いで道北連携地域(13.0%)となっている。

【人口規模別】

「これまでの感染予防対策を継続」については、人口10万人以上の市(97.5%)が最も割合が高く、次いで人口10万人未満の市(96.7%)となっている。「職場へ通常出勤(時差出勤やテレワークを行わない)」については、人口10万人未満の市(13.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(12.8%)となっている。

【性別】

「これまでの感染予防対策を継続」については、男性95.9%、女性97.3%となっており、「職場へ通常出勤(時差出勤やテレワークを行わない)」については、男性14.2%、女性8.7%となっている。

【年代別】

「これまでの感染予防対策を継続」については、30~39歳と50~59歳(98.4%)が同率で最も割合が高く、次いで40~49歳(98.1%)となっている。「職場へ通常出勤(時差出勤やテレワークを行わない)」については、30~39歳(14.3%)が最も割合が高く、次いで60~69歳(11.8%)となっている。

【職種別】

「これまでの感染予防対策を継続」については、自営業(商工サービス業)(100.0%)が最も割合が高く、次いで労務職系(98.1%)となっている。「職場へ通常出勤(時差出勤やテレワークを行わない)」については、自由業(16.7%)が最も割合が高く、次いで労務職系(16.3%)となっている。

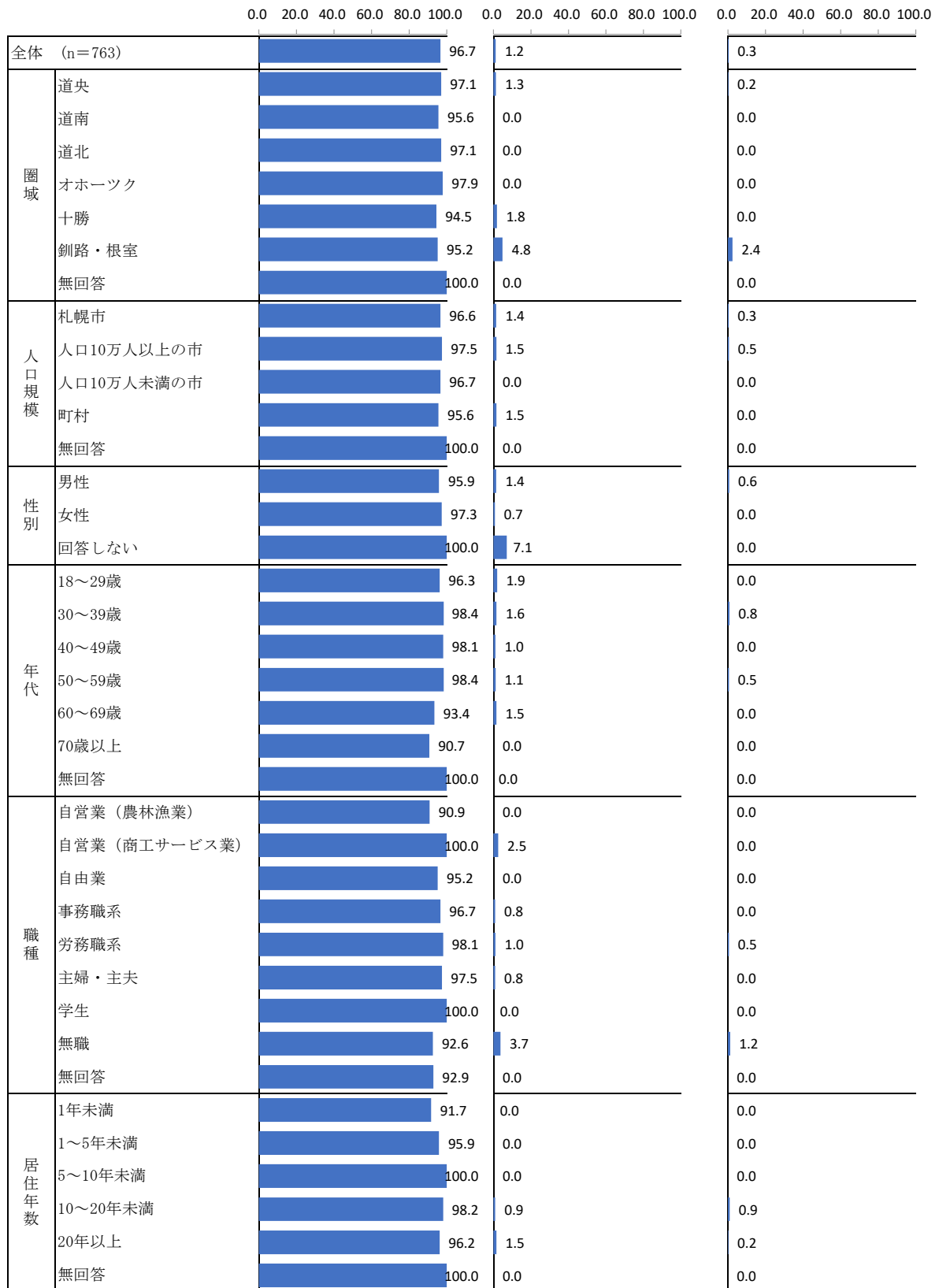
【居住年数別】

「これまでの感染予防対策を継続」については、5~10年未満(100.0%)が最も割合が高く、次いで10~20年未満(98.2%)となっている。「職場へ通常出勤(時差出勤やテレワークを行わない)」については、1年未満(25.0%)が最も割合が高く、次いで1~5年未満(18.4%)となっている。

これまでの感染予防対策を継続

感染症を気にせず外出

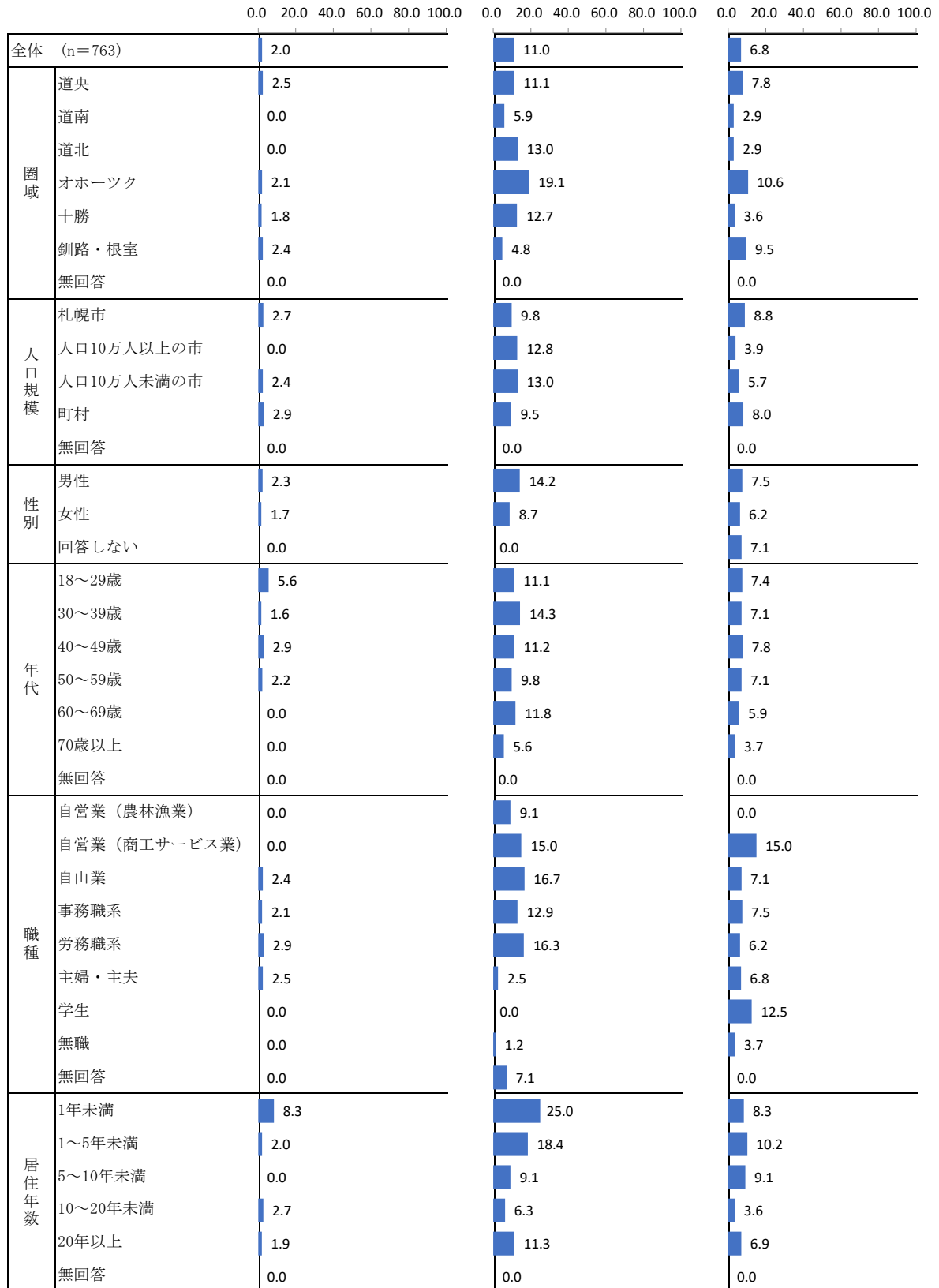
外出時のマスク着用は行わない



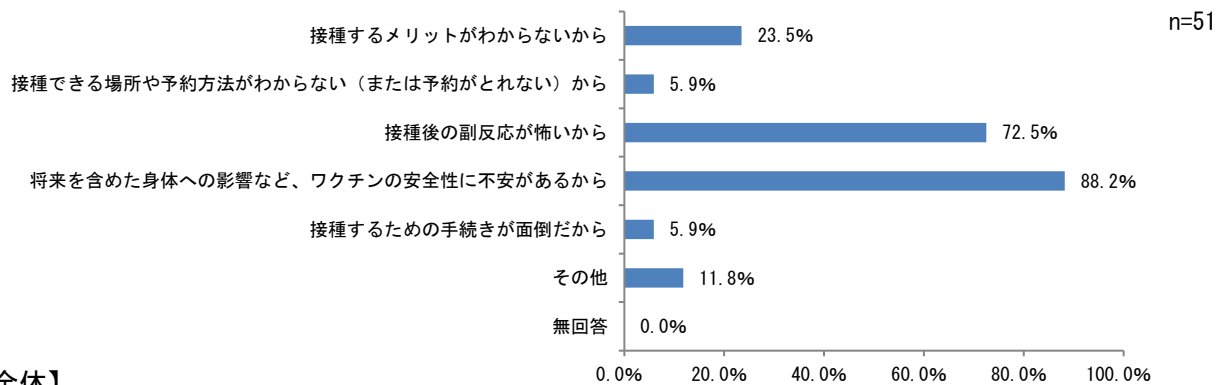
スポーツ観戦や音楽鑑賞等イベントへ積極的に参加

職場へ通常出勤（時差出勤やテレワークを行わない）

旅行に出かける（道内・道外）



問7 ※問5で選択肢「3 接種したくない」を選んだ方のみお答えください。
接種したくない理由を次の中からいくつでもお選びください。



【全体】

「将来を含めた身体への影響など、ワクチンの安全性に不安があるから」(88.2%)と答えた方の割合が最も高く、次いで「接種後の副反応が怖いから」(72.5%)、「接種するメリットがわからないから」(23.5%)の順となっている。

【圏域別】

「将来を含めた身体への影響など、ワクチンの安全性に不安があるから」については、道南連携地域、道北連携地域、十勝連携地域、釧路・根室連携地域の4地域が同率(100.0%)で最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(85.3%)となっている。「接種後の副反応が怖いから」については、道北連携地域(100.0%)が最も割合が高く、次いで道央広域連携地域(70.6%)となっている。

【人口規模別】

「将来を含めた身体への影響など、ワクチンの安全性に不安があるから」については、町村部(100.0%)が最も割合が高く、次いで人口10万人以上の市(92.9%)となっている。「接種後の副反応が怖いから」については、人口10万人未満の市(85.7%)が最も割合が高く、次いで札幌市と人口10万人以上の市が同率(71.4%)となっている。

【性別】

「将来を含めた身体への影響など、ワクチンの安全性に不安があるから」については、男性84.2%、女性90.0%となっており、「接種後の副反応が怖いから」については、男性73.7%、女性76.7%となっている。

【年代別】

「将来を含めた身体への影響など、ワクチンの安全性に不安があるから」については、18~29歳と70歳以上が同率(100.0%)で最も割合が高く、次いで30~39歳(90.9%)となっている。「接種後の副反応が怖いから」については、18~29歳と70歳以上が同率(100.0%)で最も割合が高く、次いで50~59歳(80.0%)となっている。

【職種別】

「将来を含めた身体への影響など、ワクチンの安全性に不安があるから」については、自営業(商工サービス業)と主婦・主夫が同率(100.0%)で最も割合が高く、次いで労務職系(88.9%)となっている。「接種後の副反応が怖いから」については、自営業(商工サービス業)と無職が同率(83.3%)で最も割合が高く、次いで主婦・主夫(81.8%)となっている。

【居住年数別】

「将来を含めた身体への影響など、ワクチンの安全性に不安があるから」については、1~5年未満、5~10年未満、10~20年未満が(100.0%)で最も割合が高く、次いで20年以上(83.3%)となっている。「接種後の副反応が怖いから」については、5~10年未満と10~20年未満が同率(100.0%)で最も割合が高く、次いで20年以上(66.7%)となっている。

接種するメリットがわからな
いから

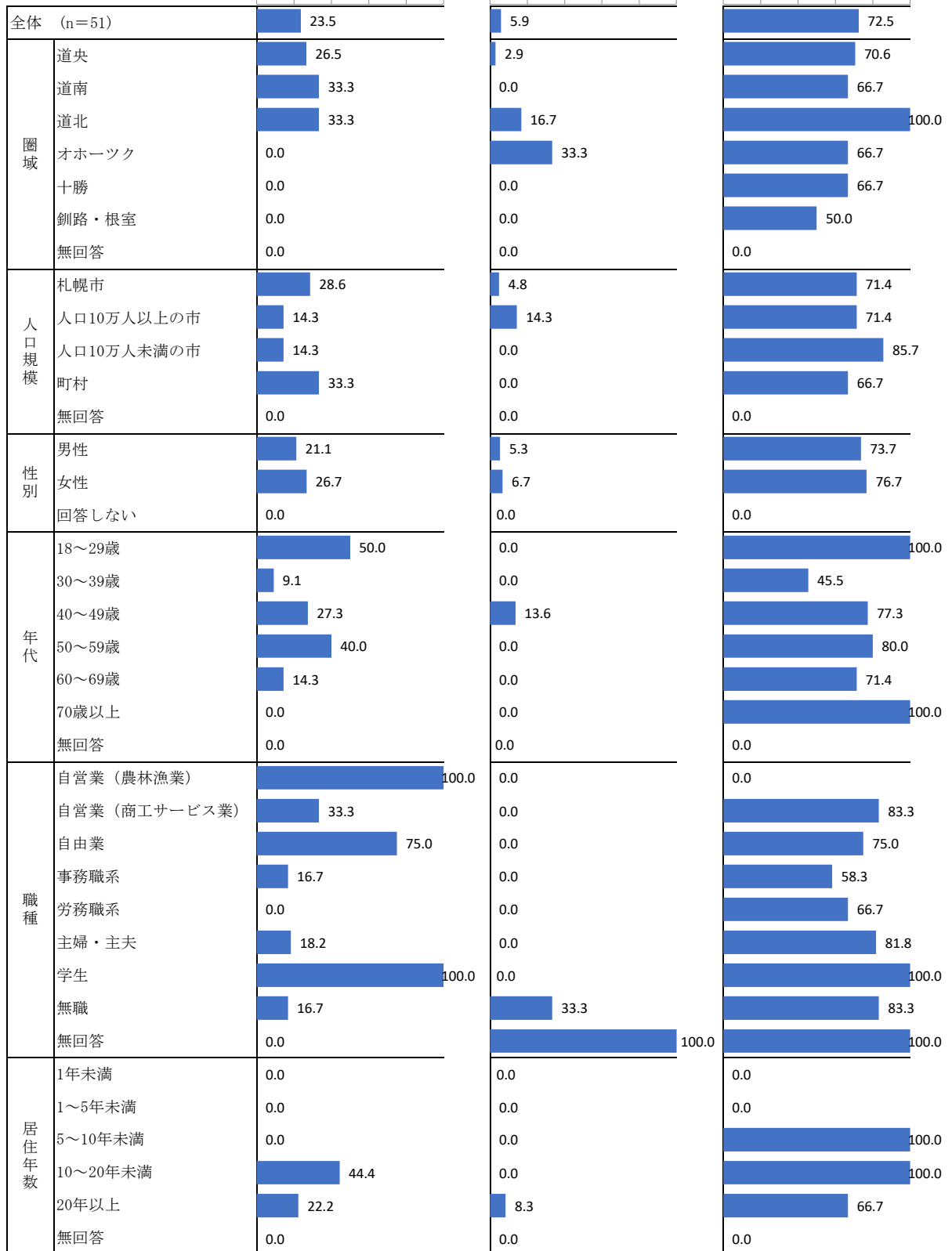
接種できる場所や予約方法がわ
からない（または予約がとれな
い）

接種後の副反応が怖いから

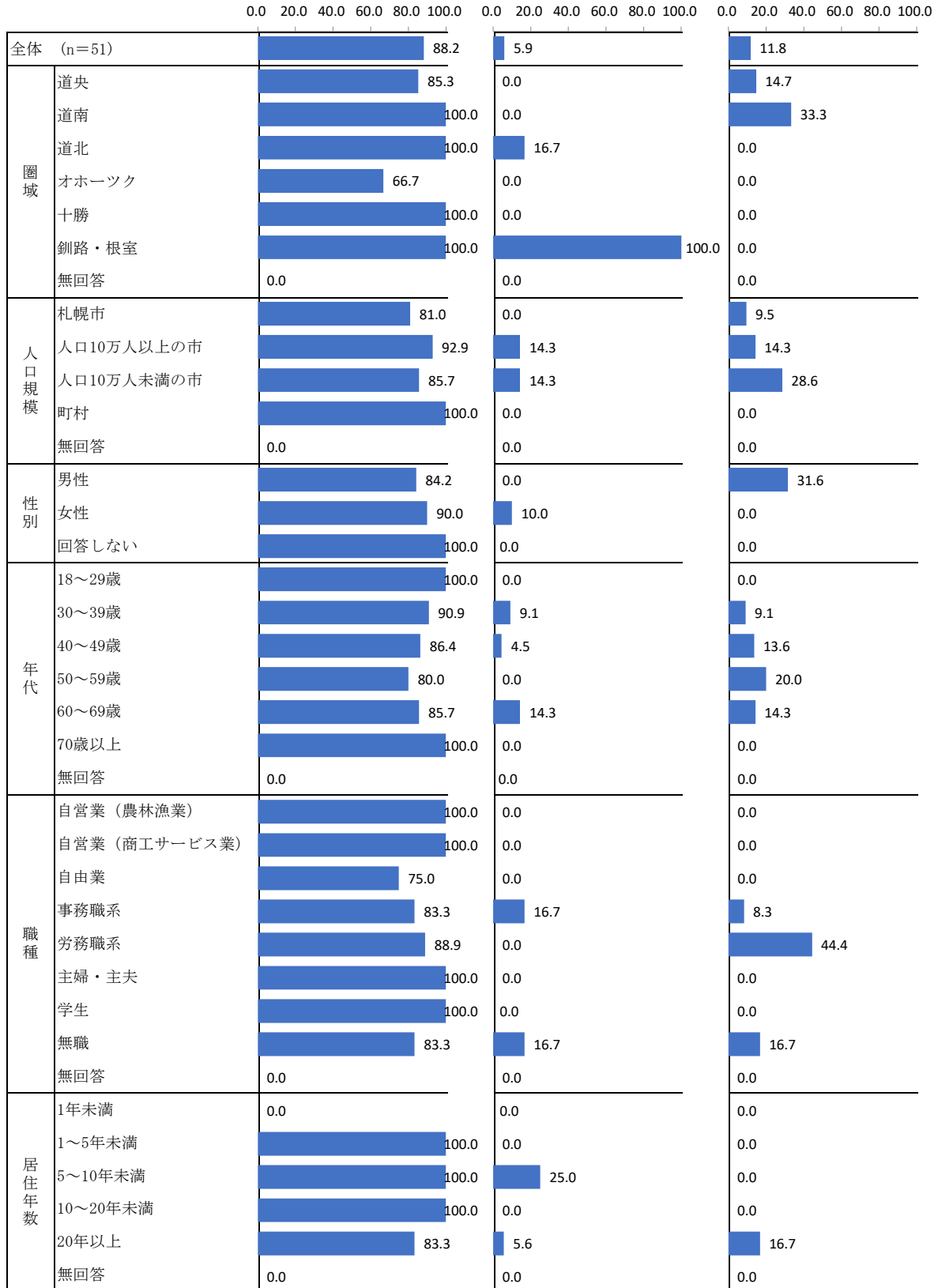
0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0



将来を含めた身体への影響など、ワクチンの安全性に不安があるから
 接種するための手続きが面倒だから
 その他



無回答

0.0 20.0 40.0 60.0 80.0 100.0

全体	(n=51)	0.0
圏域	道央 道南 道北 オホーツク 十勝 釧路・根室 無回答	
人口規模	札幌市 人口10万人以上の市 人口10万人未満の市 町村 無回答	
性別	男性 女性 回答しない	
年代	18～29歳 30～39歳 40～49歳 50～59歳 60～69歳 70歳以上 無回答	
職種	自営業（農林漁業） 自営業（商工サービス業） 自由業 事務職系 労務職系 主婦・主夫 学生 無職 無回答	
居住年数	1年未満 1～5年未満 5～10年未満 10～20年未満 20年以上 無回答	

「新型コロナウイルス感染症について」の調査を終えて

新型コロナウイルス感染症に関する情報の収集は、テレビと答えた方が約9割と高く、次いでインターネットやSNSが約7割となっている。

一方で、道からの情報の収集は、ホームページからが約5割、次いで広報紙、新聞広告となっている。

必要な情報としては、「新型コロナウイルス感染症についての正しい知識」、「感染した場合の対応方法」、「感染の状況」、「医療機関の情報」がそれぞれ約6割となっており、感染への危機感や感染した場合の対応についての関心が高くなっている。

また、実際に取り組んだ感染対策としては、多い順から「マスクの着用など基本的な感染防止の取組」、「不要不急の外出を控えること」、「ワクチンの接種」、「飲食の場面の取組」となっている。

こうした調査結果を踏まえ、道民の皆様が新型コロナウイルス感染症の正しい知識に基づいた感染防止行動を取っていただけるよう、SNSをはじめとした多様な媒体を活用した効果的な情報発信手法について検討していく。

ワクチン接種については、全体の7割近くが接種済みであり、未接種だが接種を希望される方も2割以上いる一方、接種を希望しない方は1割以下となっており、ワクチン接種に対する関心の高さが伺える。

また、接種済みまたは接種を希望される方の接種後の行動については、職場への通常出勤や旅行についてあげる方もいる一方、ほぼ全員がこれまでの感染予防対策を継続すると回答するなど、ワクチンにより完全に感染を防止できるわけではないことへの理解が浸透しているものと考えられる。

他方、接種を希望しない方は、10代から40代までの各年代層にそれぞれ一定程度おり、そのうち7～8割の方が接種後の副反応やワクチンの安全性への不安を理由にあげている。

こうした調査結果を踏まえ、副反応などワクチン接種の不安を解消し、正確な情報の下にご判断いただけるよう、各媒体の特性等を踏まえた効果的な広報に努める。

(新型コロナウイルス感染症対策本部指揮室)